

Quality is more than a word

ESPEC



第 **71** 期

株主通信

2023 年4月1日から2024 年3月31日まで

株主のみなさまへ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

2023年度(2023年4月～2024年3月)の事業環境といたしましては、社会のデジタル化や脱炭素化を背景にエレクトロニクスおよび自動車関連の投資が堅調に推移し、主にEV(電気自動車)シフトによる需要が継続いたしました。生産面につきましては、一部の部品調達は長納期が継続しておりますが、戦略的在庫の積み増しなどにより生産量を拡大いたしました。

当年度の経営成績につきましては、特に国内市場においてEV・バッテリー分野が好調に推移したことにより、前年度比で受注高は4.7%増加し3期連続で過去最高を更新、売上高は17.5%増加し2期連続で過去最高となりました。利益面につきましては、販管費が増加いたしました。増収および製品・サービスの値上げ効果により営業利益は50.8%増加、親会社株主に帰属する当期純利益は49.2%増加と、いずれも過去最高を更新いたしました。

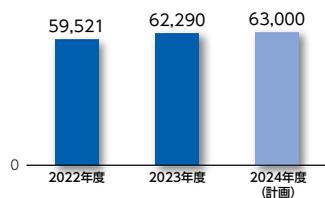
また、ROE(自己資本利益率)は10.0%(前年度比2.8pt増)となりました。期末配当金につきましては、期初計画から5円増額し1株当たり50円、年間75円とさせていただきます。

当社は、中期経営計画「プログレッシブ プラン2025」のもと、2025年度目標として売上高550億円、営業利益70億円(営業利益率12.7%)、ROE10%を目指してまいりましたが、EV・バッテリー分野の投資拡大および円安進行により当初目標を上回る見通しとなったことから、目標値を上方修正しました。売上高650億円、営業利益75億円(営業利益率11.5%)、ROE10%以上を目指してまいります。また、2024年度目標は、売上高650億円、営業利益70億円(営業利益率10.8%)、ROE9.6%です。受注残高が積み上がっている国内において生産能力を増強するとともに、商品ラインアップの拡充や愛知県常滑市にて新しい受託試験所の開設を進めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申しあげます。

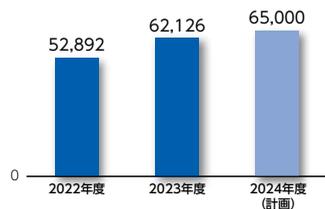
受注高

(百万円)



売上高

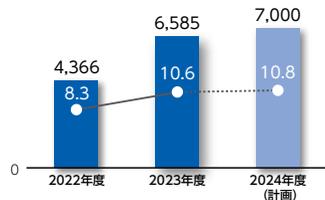
(百万円)



営業利益 営業利益率

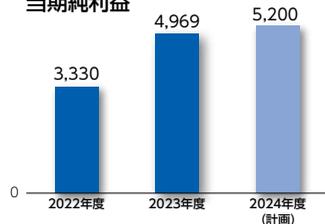
■ (百万円)

○ (%)



親会社株主に帰属する 当期純利益

(百万円)



1株当たり配当金

	2022年度*	2023年度	2024年度計画
中間	24 円	25 円	35 円
期末	45 円	50 円	45 円
合計	69 円	75 円	80 円
配当性向	45.9%	33.0%	33.6%

* 創業75周年の記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む



代表取締役会長
いしだ まさあき
石田 雅昭

代表取締役 執行役員社長
あらた さとし
荒田 知

自動車のEVシフトを背景に2023年度受注高は3期連続過去最高を更新 主にEV・バッテリー向け製品・サービスが拡大

2050年のカーボンニュートラル社会実現に向けてEV(電気自動車)など自動車の電動化が進んでおり、当社製品・サービスの需要が拡大しています。EVシフトに貢献するエスペックの事業を紹介します。

電動化が進む自動車市場

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、自動車市場では化石燃料を用いるガソリン車から動力源に電力を使用するEVへの移行が急がれています。これにより、世界各国でEVの車種拡大や、EVの心臓部とも言えるバッテリーの開発が進んでおり、高性能化や安全性の確保が課題となっています。当社は、自動車市場を中期経営計画の重点分野と位置付け、製品・サービスの拡充やマーケティングの強化に取り組んでいます。これにより2023年度は特に日本国内において、EV・バッテリー向け製品・サービスの受注高を大きく伸ばすことができました。

EVの性能や安全性を確保するための試験

EVには、バッテリーやモーターだけでなく、ECU(電子制御コンピューター)やインバーターなど多様な部品・電装品が搭載されており、どのような環境で自動車が走行しても、これらの性能や品質が保たれることを確認する必要があります。特に、キーデバイスであるバッテリーは、リチウムイオン電池の高容量化や、次世代電池として全固体電池の開発が進んでおり、性能評価や安全性確保のための試験が求められています。当社は試験装置の販売と、当社試験所にてお客さまの試験を請け負う受託試験サービスの両方で自動車の電動化を支えています。

車載部品・電装品

- ・ ECU
- ・ インバーター
- ・ コンバーター
- ・ センサー
- ・ モーター
- など



- #### 車載用バッテリー
- ・ リチウムイオン電池
 - ・ 全固体電池
 - など

EV(電気自動車) イメージ

自動車の電動化を支える製品・サービス

環境試験器

製品ラインアップと技術力により高度化するニーズに対応

車載部品の開発段階で、寒冷地や赤道地帯など自動車が走行する地域を想定した気象環境を再現し、性能や品質を評価します。近年、温度を急速に上昇・下降させる装置や、部品が組み込まれたモジュール、さらには実車単位の試験が行える大型装置の需要が増えています。このような高度化する試験ニーズに豊富な製品ラインアップと技術力でお応えしています。

温湿度範囲の例

-70~180℃ / 10~98%rh



車載部品が使用される過酷な環境を再現するハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ

エネルギーデバイス装置

高容量化が進むバッテリーの充放電試験を安全に実施

バッテリーの開発・量産品評価において、幅広い温度環境下で充電・放電を繰り返し、性能や安全性を評価します。バッテリーの高容量化が進むなか、安全に試験を行えるよう充放電試験の専用機としてラインアップを拡充しています。

温度範囲

-40~100℃



万一の爆発に対応した充放電試験恒温槽

受託試験サービス

最先端の設備と高い試験技術で安全性試験サービスを提供

バッテリーは、故障時などの発煙・発火を想定し、熱負荷を与える熱衝撃試験や、強制的にショートさせる外部短絡試験など安全性を確保するための試験が行われます。安全性試験には最先端の設備や高い試験技術が必要であり、当社はバッテリー安全認証センター(栃木県宇都宮市)にて、年間500件以上の試験を実施しています。さらに、需要拡大に対応するため、2025年2月、愛知県常滑市に新試験所を開設予定です。



当社受託試験所にて高い試験技術を持つ社員が試験を実施

お客さまインタビュー

「野生の味×刃物の切れ味」をコンセプトに究極のジビエ料理を提供

NOMI RESTAURANT (ノーマ・レストラン)

当社は新規事業として食品機械分野に挑戦しており、温度や湿度などの制御技術を活かした商品を提案しています。今回は、当社の商品「熟成庫」を鹿肉や猪肉の熟成に使用いただいているNOMI RESTAURANTのシェフ山本 遊士丸さまにお話を伺いました。

ジビエ料理を提供されることになった経緯を教えてください。

私たち家族はもともと農業を営んでおり、農作物を守るために鹿や猪の狩猟を行っていました。自然農法を追求するうちに、自然環境の中で自由に生きる野生動物の食材としての魅力に気づきました。ジビエは癖が強く食べづらいと思われがちですが、狩猟や下処理、加工の方法によって質の高い食材になります。命をいただくからにはできるだけ美味しく提供したいと考えています。



鹿肉を熟成中の熟成庫前にて
NOMI RESTAURANT 兄 山本 遊士丸さま (中央)、弟 陽之進さま (左)、
エスベックリヤラボ株式会社 山根 大了 (右)

環境試験器メーカーである当社の「熟成庫」を選ばれた理由をお聞かせください。

ジビエの提供を考え始めたころ、エスベックさんのウェブサイトが目にとまりました。他社の商品とは比較にならないほど精密に温湿度の管理ができ、少量で高品質な食材を求める私たちのレストランにぴったりだと思いました。厨房機器メーカーではないところにも面白さを感じました。

「熟成庫」を使用されたご感想はいかがですか。

狩猟や包丁研ぎなどで肉に手間をかける時間が限られるなか、いつ見ても狙いどおりの温湿度が保たれており信頼しています。特に鹿肉はお客さまから好評です。エスベックさんの「熟成庫」がなければ満足できるジビエ肉の提供はできなかったと思います。

NOMI RESTAURANT

住所：京都府福知山市三和町下川合710-3

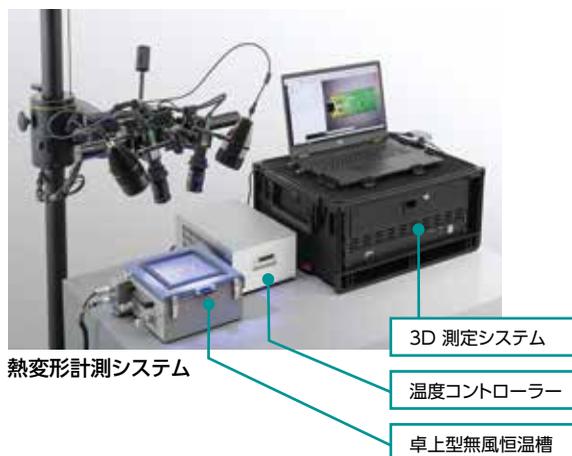
電話：0773-59-2255





「熱変形計測システム」の 販売および受託解析サービスを開始

2024年1月、温度環境下における半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化する「熱変形計測システム」の販売および受託解析サービスを開始しました。携帯機器の5G化や車の自動運転化を支える半導体パッケージや実装基板は、従来と比較してデータ量が多く処理速度が速いため、消費電力や発熱の増大による接合不良が起りやすくなっています。こうした課題解決に向け、開発・設計段階から熱による反り変形量を正確に把握できる「熱変形計測システム」を開発しました。当社の「卓上型無風恒温槽」や「スポット冷却加熱装置」と、3D測定専門メーカーの3次元デジタル画像相関法を用いた計測カメラを組み合わせることで高い精度での計測が可能です。半導体パッケージなど電子部品・電子機器の信頼性確保に貢献してまいります。



名古屋市で個人投資家向けIRセミナーを実施

2024年3月、愛知県名古屋市で個人投資家向けIRセミナーを行い、約120名のみなさまにお越しいただきました。社長の荒田より、当社の事業内容や強み、株主還元などについてご説明しました。



▶こちらから当日のセミナー動画を
ご覧いただけます。

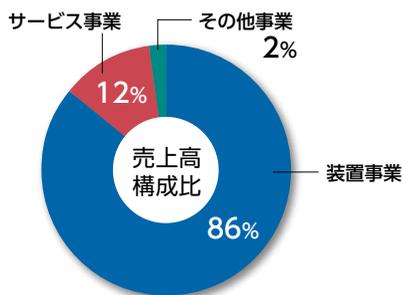
栃木県の事業所で 「環境フェスティバル」を4年ぶりに開催

エコ体験を通じて地域の方々と交流する「環境フェスティバル」を宇都宮テクノコンプレックスで4年ぶりに開催しました。近隣の子どもたちをはじめ約90名が来場し、紙すき体験や牛乳パックを利用した箸置き制作、オリジナルエコバックの制作などを行いました。



社員が「環境フェスティバル」の企画・運営を行いました

事業セグメント別概況



※連結消去△383百万円

〈装置事業〉

- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置

〈その他事業〉

- 環境保全
森づくり・水辺づくり・都市緑化
- 植物育成装置
植物工場、研究用育苗装置

〈サービス事業〉

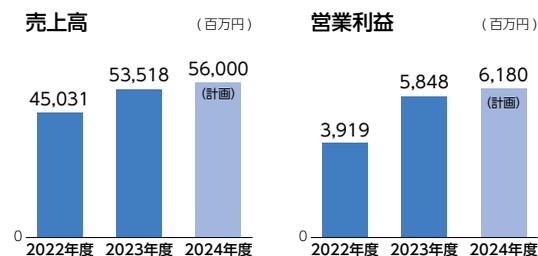
- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

装置事業

環境試験器については、国内市場の受注高は汎用性の高い標準製品が前年度並みとなったものの、カスタム製品はEV・バッテリーを中心に大幅に増加しました。売上高は、カスタム製品への要員シフトなど生産対応を強化し、標準製品・カスタム製品ともに増加しました。海外市場では、受注高は中国、欧州が減少し前年度を下回りました。売上高は、北米、欧州、韓国、台湾、東南アジアが増加し、前年度を上回りました。エナジーデバイス装置については、EV・バッテリー向けの投資拡大により国内で充放電試験用チャンバーが好調に推移し、生産体制の整備もあり、受注高・売上高ともに大幅に増加しました。半導体関連装置については、メモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高・売上高ともに減少しました。装置事業全体では、売上高は18.8%増加し、営業利益は販管費が増加したものの増収、および値上げ効果により49.2%増加しました。



恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
車載用機器など大型の試験品に対応

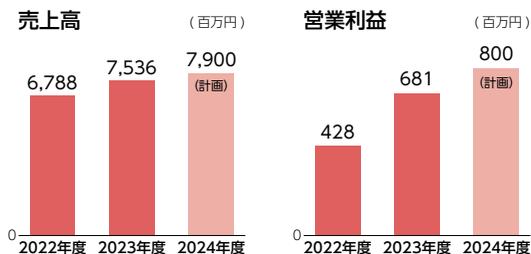


サービス事業

アフターサービス・エンジニアリングについては、予防保全・修理サービスともに堅調に推移し、受注高・売上高ともに増加しました。受託試験・レンタルについては、車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、受注高・売上高ともに増加しました。サービス事業全体では、売上高は11.0%増加し、営業利益は増収および値上げ効果により59.3%増加しました。



バッテリー安全認証センターにて車載用バッテリーの充放電試験や釘刺し試験の設備を増強(宇都宮テクノコンプレックス内)

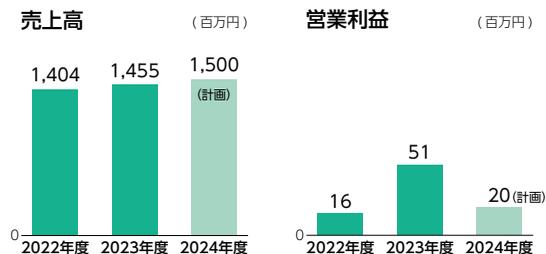


その他事業

環境保全事業および植物育成装置事業を中心とするその他事業では、新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスなどの受注を獲得しましたが、森づくりや植物研究用装置が減少し、受注高は前年度並みとなりました。売上高は、水辺づくりや野菜の販売が堅調に推移し3.7%増加、営業利益は211.0%増加しました。



川崎水族館にてアクアポニックスを使った栽培試験を実施
微生物で発酵させたカピバラの糞尿水を空心菜の栽培に活用



要約財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

科目	前年度末 2023年3月31日	当年度末 2024年3月31日
資産の部		
流動資産	48,000	54,674
固定資産	19,176	23,560
有形固定資産	12,501	14,126
無形固定資産	1,227	2,259
投資その他の資産	5,447	7,174
① 資産合計	67,176	78,235
負債の部		
流動負債	17,277	22,447
固定負債	2,726	3,072
② 負債合計	20,003	25,519
純資産の部		
株主資本	44,408	47,722
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	7,158	7,053
利益剰余金	33,673	37,091
自己株式	△3,318	△3,318
その他の包括利益累計額	2,544	4,993
非支配株主持分	218	—
③ 純資産合計	47,172	52,715
負債純資産合計	67,176	78,235

① 総資産

前年度末と比べ11,059百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加2,496百万円、売上債権(受取手形、売掛金及び契約資産並びに電子記録債権)の増加2,200百万円、売上高の増加に伴う仕掛品、原材料及び貯蔵品などの棚卸資産の増加1,933百万円、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加や、繰延税金資産の増加等による投資その他の資産の増加1,727百万円、連結子会社による事業譲受に伴うのれんの計上等による増加1,020百万円、取得等による土地の増加563百万円などによるものです。

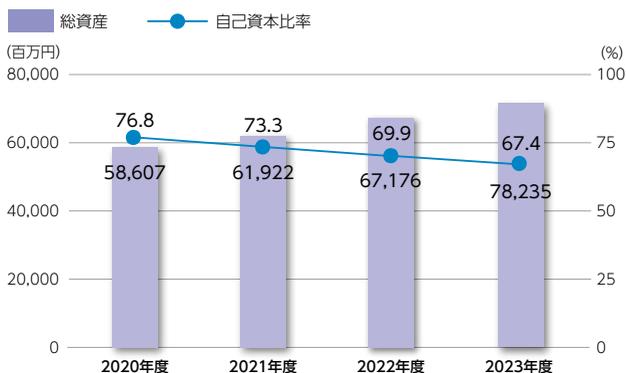
② 負債

前年度末と比べ5,515百万円の増加となりました。その主な要因は、短期借入金の増加5,000百万円、仕入債務(支払手形及び買掛金並びに電子記録債務)の減少647百万円、未払法人税等の増加450百万円などによるものです。

③ 純資産

前年度末と比べ5,543百万円の増加となりました。その主な要因は、当連結会計年度において親会社株主に帰属する当期純利益が4,969百万円計上された一方、配当金として1,545百万円が利益処分されたこと等による利益剰余金の増加3,418百万円、円安進行に伴う為替換算調整勘定の増加1,580百万円、その他有価証券評価差額金の増加750百万円などによるものです。

総資産・自己資本比率



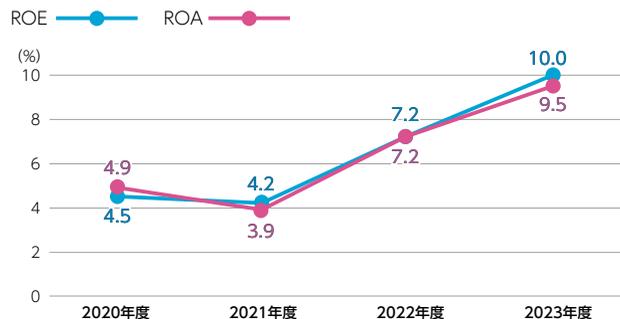
※2021年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しています。

連結損益計算書

(百万円)

科目	前年度 2022年4月1日から 2023年3月31日まで	当年度 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
売上高	52,892	62,126
売上原価	34,935	40,132
売上総利益	17,957	21,994
販売費及び一般管理費	13,590	15,408
営業利益	4,366	6,585
営業外収益	346	383
営業外費用	48	49
経常利益	4,664	6,919
特別利益	20	6
特別損失	14	9
税金等調整前当期純利益	4,670	6,916
法人税等	1,334	1,937
当期純利益	3,336	4,978
非支配株主に帰属する当期純利益	5	9
親会社株主に帰属する当期純利益	3,330	4,969

自己資本利益率(ROE)・総資産経常利益率(ROA)



連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	前年度 2022年4月1日から 2023年3月31日まで	当年度 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,916	2,738
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,061	△3,778
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,898	2,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	183	736
現金及び現金同等物の増減額	△1,859	2,495
現金及び現金同等物の期首残高	16,157	14,298
現金及び現金同等物の期末残高	14,298	16,793

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は2,738百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益6,916百万円の計上による資金の収入、売上高の増加に伴う棚卸資産の増加による資金の支出1,624百万円、減価償却費の計上1,520百万円、売上高の増加に伴う売上債権の増加による資金の支出1,492百万円、法人税等の支払による資金の減少1,400百万円、仕入債務の減少による資金の支出1,140百万円などによるものです。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は3,778百万円となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出2,240百万円、子会社における事業譲受による支出1,800百万円などによるものです。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は2,798百万円となりました。これは主に短期借入による収入5,000百万円、配当金の支払額1,539百万円、連結範囲の変更を伴わない子会社株式取得による支出333百万円などによるものです。

会社概要・株式の状況・株主メモ

会社概要(2024年3月31日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	1947年(昭和22年)7月25日
設立	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,775名(連結) 790名(単体)

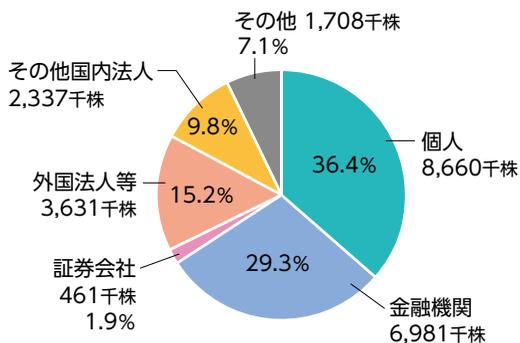
役員(2024年6月21日現在)

代表取締役 会長	石田 雅昭
代表取締役 執行役員社長	荒田 知
取締役 常務執行役員	末久 和広
取締役	大島 敬二
取締役 執行役員	西谷 淳子
社外取締役	柳谷 彰彦
社外取締役	平田 一雄
取締役 (常勤監査等委員)	石井 邦和
社外取締役 (監査等委員)	田中 崇公
社外取締役 (監査等委員)	吉田 恭子
執行役員	浜野 寿之
執行役員	淵田 健二
執行役員	渡部 克彦
執行役員	梅原 武彦

株式の状況(2024年3月31日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式1,708,685株を含む)
株主数	8,814名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,072	13.92
エスペック取引先持株会	2,229	10.09
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,492	6.76
エスペック従業員持株会	801	3.62
日本生命保険相互会社	553	2.50
MSIP CLIENT SECURITIES	528	2.39
株式会社日立花エレクトック	419	1.89
佐々木 嘉樹	380	1.72
第一生命保険株式会社	276	1.25
CEPLUX-ABRDN SICAV I	272	1.23

※持株比率は自己株式を除いて計算しています。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(通話料無料) (土、日、祝日を除く9:00~17:00)
株主総会資料の 電子提供制度 (書面交付請求) お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324(通話料無料) (土、日、祝日を除く9:00~17:00)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店)
公告方法	電子公告 電子公告掲載の当社ウェブサイトURL https://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

お問合せ先

エスベック株式会社 サステナビリティ推進部 IR・広報グループ
Tel: 06-6358-4744 e-mail: ir-div@espec.jp

IRサイト・メール配信サービスのご案内

IRサイトでは財務・業績データや株式情報など
さまざまな情報をご覧いただけます。

■ 決算説明会ページ

社長による2023年度決算説明動画を
掲載しています。

<https://www.espec.co.jp/ir/event/presentation.html>



■ IRメール配信サービス

IR情報をタイムリーにお知らせし
ます。IRサイトよりご登録いただけ
ますのでぜひご利用ください。

<https://www.espec.co.jp/ir/event/presentation.html>



■ IRサイトに対する社外評価



株主アンケートのお願い

当社は、株主のみならずからいただいたご意見を真摯に受け止め、IR活動に反映させていきたいと考えております。つきましては、別紙アンケートへのご協力をお願い申し上げます。アンケート結果は中間株主通信にてご報告予定です。また、ご回答いただいた方の中から、抽選で300名に1,000円分のQUOカードを進呈いたします。(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)

締切: 2024年7月20日(土) ※当日消印有効

証券コード:6859

エスペック株式会社



表紙・裏表紙の写真について

自然豊かな当社神戸R&Dセンター エスペックバンビの里の写真を用いました。

表紙のお花はハナショウブ、裏表紙は藤とオカトラノオ、ピオトープに生息するダイサギです。